

# 審議会等議事概要

平成26年度 第2回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日時	平成27年2月13日(金) 15:30～
開催場所	滝川市役所 7階 701会議室
出席者	会長：富家直明委員 委員：中川桂子委員、神原充史委員、豊田収委員 事務局：小田教育長、館部長、小野指導参事、吉川課長、鎌田係長
議事	<p>1 開 会 進行：鎌田係長</p> <p>2 会長挨拶 富家直明会長より挨拶</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 報告</p> <p>i 教育長概要報告</p> <p>ii 市及び市立学校におけるいじめの防止等の対策に係る取組状況について</p> <p>i について、小田教育長より報告</p> <p>ii について、吉川課長より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>①委員)</p> <p>・小学校1・2年生の、現在もいじめられていると回答したパーセンテージが高いことについて、その実感を伺う。</p> <p>事務局)</p> <p>小学校1・2年生においては、起きている事象を安直に“いじめ”と表現してしまう傾向にあるため、その表れではないかと考えている。</p> <p>②委員)</p> <p>・小学校高学年から中学校1年生において、現在もいじめられていると回答したパーセンテージが低いことについて、手ごたえや実感を伺う。</p> <p>事務局)</p> <p>過去の結果を見ても低率であることから、落ち着いた状態が続いていると認識している。中一ギャップに対する取組の効果が表れたものと捉えたい。</p> <p>③委員)</p> <p>・小学校1年生の8.2パーセントがスマートフォン等を所持しているという</p>

結果について、学年を鑑みて所持率が高率であると感じる。

事務局)

見守りケータイなどの子供用携帯電話も含まれるので、この所持率となったと考える。

④委員)

- ・教職員や保護者がスクールカウンセラーに相談をする傾向が見て取れ、大変良いことだと感じている。
- ・クラス替えがない(クラスメイトが変わらない)学年間について、「今もいじめられている」と回答した場合、長期に渡るいじめの可能性も考えられるので、パーセンテージを注視したい。

⑤委員)

- ・スクールソーシャルワーカーの活動について伺う。

事務局)

不登校の児童生徒及びその保護者の相談、家庭訪問、担任教諭との懇談など、幅広く活動している。

⑥委員)

- ・「今もいじめられている」との訴えに対する担任の対処において、他の教職員から情報を集めた割合が非常に低い。このことを踏まえて、校内の管理職を含めた教職員の情報共有のあり方について伺う。

事務局)

校内において情報共有の場は設けているが、十分活かされていない現状が結果として表れていると考える。今後、情報の収集・共有については内容の徹底と充実を図るよう進めていきたい。

⑦委員)

- ・「今もいじめられている」との訴えに対しての再発防止策において、学校全体の指導に結びつけた割合が非常に低い。当事者間のトラブルを当事者間のみで終わらせるのではなく、学校全体の問題として指導することは、再発防止策において非常に重要である。⑤の質疑と併せて、徹底と充実をお願いしたい。

(2) 協議

i いじめに関する通報・相談状況について

ii いじめ認知状況について

i ~ ii について、吉川課長から説明

## 質疑応答等

### i について

特になし

### ii について

#### ①委員)

- ・いじめの拡大防止という視点からは評価できるが、未然防止という視点では疑問が残る。被害者や同級生の相談で初めていじめが明るみになるその前に、担任や部活顧問、ひいては教職員が、例えば、給食の配膳につく、朝に担任のクラスや学年を見回るなど、いじめの兆候を見通すことができるようになるための意識を持って動くことが大切である。

#### ②委員)

- ・いじめの未然防止について、いじめに関する通報・相談により問題が表面化した際、全く予想だにしないケースよりも、何らかの心当たりのあるケースがほとんどである。それは、いじめの端緒はすでにあつたものの、放置・情報の共有がなされていなかった結果であると考える。

#### ③委員)

- ・怒りの矛先を他の児童生徒に向けることによっていじめにつながる事例があるように、発達段階に応じた感情のコントロールの方法や表し方を育てる等、児童生徒に対するいじめの予防教育も大切である。また、中学生の抱えている諸問題は、小学生の頃からの継続事案であることが多いため、小中連携も非常に重要である。

#### ④委員)

- ・踏み込んだ予防教育については大いに共感するところである。
- ・再三の指導に対しても反省がみられない児童生徒に対しては、最終手段ではあるが出席停止の措置もやむを得ないということも現実問題として考えなければならない。また、いじめられた児童生徒にとってはいじめの解決がゴールではなく、自尊心の回復が最終的なゴールである。自尊心の回復には長期的なスパンが必要であり、そのためにも小中連携は非常に重要である。

## 4 次回の会議開催

予定日：平成27年9月下旬（予定）

## 5 連絡事項

会議資料は非公表のものである旨を連絡

	6 閉会
会議資料	会議次第